



## 『道を極める』

岡山県倉敷市  
昇龍館一福道場

中学1年生 武市純平

愛媛県に生まれ育ち、5人兄弟の僕が剣道を始めたのは、尊敬する兄が剣道をしていたからです。小学生低学年でしたが、兄が全日本少年剣道錬成大会に出場する話を聞いて、僕は興奮した思い出があります。そして高学年になったら絶対に出場し、日本一になり剣道を極めたいと自分の道を決めました。

しかし、僕の家庭や環境には沢山の問題がありました。母は女手一つで5人の子どもを育てる中、必死に支えてくれました。しかし中々、愛媛県の中で自分にあった道場が見つからず、ずっと悩んでいました。僕の祖父も祖母も必ずしも剣道の道を極めることに賛成してくれませんでした。特に、岡山県倉敷市にある昇龍館一福道場に時々稽古に参加するようになって、意見が対立しました。いつも母が強くサポートしてくれ、5年生の時、僕たち兄弟は剣道のために、愛媛県から倉敷市に引っ越ししました。新しい環境での稽古は、厳しいだけではなく、常に指導者がいてくれ、一つ一つの試合に勝つことが強いられました。僕はわくわくした気持ちと緊張とを感じながら、とにかく週7回毎日休まず稽古をしました。

5年生の夏、大きな舞台が僕に回って来ました。日本武道館で開催される全日本少年少女剣道錬成大会です。努力を重ねてきたにも関わらず、僕は不安と緊張で、体が思うように動かなかったことを強く覚えています。決勝戦、副将の僕は、守るべき場面を守り切れず敗戦し、優勝旗を手にすることができませんでした。

悔しさと来年こそはという思いが、さらに剣道に打ち込む力をくれました。一時期、自分の剣道に迷いがあり、結果を出すことができず、レギュラーを外された時期もありました。その間、ひたすらに稽古に励むと同時に、兄が出場したい試合や、他の選手のいい試合のVTRを研究して、その時期を乗り越えました。

努力の成果も見えてきた頃、兄が突然、病気で倒れて入院する出来事がありました。僕は心配で夜も眠れませんでした。見舞いにも行かず、とにかく剣道をすること、この道を極めることで兄に恩返しをしようと歯を食いしばりました。尊敬する兄が今この時、剣道ができない分、僕がやるしかない優勝旗に向けて、自分のすべてを捧げたのです。

最後のチャンス。6年生の夏。全日本少年少女剣道錬成大会と全日本少年剣道錬成大会のため、再び日本武道館で戦うことになりました。病気が治った兄のため、仕事のため観戦に来ることが出来なかった母のため、今まで稽古をするために助けてくれた人のために、がんばろうと身の引きしめる気持ちでした。

全剣連では、全部で6回勝ち進まなければなりません。この1年、色んな事があった中で稽古を重ねてきたお蔭でしょうか。いつもの自分ではない力が発揮できました。体がまるで勝手に動いて、心は無心になり、相手がとてもよく見えるのです。いつの間にか大会は終わっていて、優勝をしていました。また、道連でも、同じような状態で臨むことができました。決勝戦、相手は福岡一信館。先鋒から副将まで引き分けで、大将戦で一本勝ち。守って、守って大将につなげ、最後の一本で、僕たちは、二つの優勝旗を手にすることができました。今も、僕は剣道の道を極めるために稽古に励んでいます。兄は、優勝旗を持って返った時、「僕に出来ないことをやり遂げたな」と言ってくれました。剣道を必死ですることに反対していた祖父祖母も、今では、優勝の新聞記事を自慢げにスクラップしてくれ、心から喜んで応援してくれます。

これからも「道を極めること」は難しいけれど、沢山の人に支えられ、自分の努力で成果を出していきたいと強く思います。